

『心あるところに宝あり』

日本を美しくする会
相談役 鍵山秀三郎

「掃除には人の心を穏やかにするもの凄い力がある」

私がしていることは「掃除」です。「掃除なんて」と、最初はずいぶん馬鹿にされたり、嘲笑されたりしましたが、今では「掃除」によって学校の生徒を更正させようとか、そういう動きが日本中で増えてまいりました。

なぜ掃除に力を入れてきたかと申しますと、きれいにすると人の心が穏やかになり、争いごとが少なくなってくるからです。学校でも、きれいにすると間違いなく生徒の非行がなくなります。徹底した掃除をすることにより、人の心が穏やかになってきます。決してつまらない争いごとをしなくなる、これは事実でございます。

「大切なのは一部分を徹底的に掃除すること」

皆さんが働いているところをいっぺんにきれいにすることはできません。しかし、一部分なら可能です。その一部分を徹底的にきれいにして、その一部分をだんだんに増やしていく、すると、あるところまで来ると残りは一斉にきれいになります。これは、私の体験によるものですが、不思議なもので物事のすべてがこの法則にのっっています。

便教会新聞

第153号

令和2年 10 月

『見えなかった世界』

(愛知県) 稲沢市立千代田中学校
三年 田邊 奈央

私たちの学校で今年行われた教育講演会のテーマは「掃除に学ぶ人間力」でした。「掃除に学ぶ」とはどういうことなのか不思議に思いながら、便教会の高野先生のお話を聞きました。

私の中での掃除の概念は、「汚いところを磨く」「ほうきや雑巾、ブラシを使ってきれいにする」など、好んで行う作業ではないという、あまり良いイメージをもっていませんでした。話を聞きながら、そんな掃除から何を学べるのかとさらに謎が深まってきました。

しかし、高野先生の話を聞いて掃除に対する見方が変わりました。掃除は自分のきれいにしたいところを工夫して自ら取り組むときれいな世界が広がるということを知りました。自分や他人が「汚い」「嫌だ」と思うところを率先してきれいにしていく。きれいになったら次また同じことを繰り返し行っていく。この良い習慣が良い人生を作っていくということを教えてくださいました。「よい人生とは、良い習慣です。繰り返し行うことで習慣となり、それが続けばよい人生になります。」高野先生のこの言葉が

「きれいな職場から良い仕事が生み出される」

私は、お店はお客さまを迎えるところであり、また、職場がきれいでなければ良い仕事はできないと信念を持って取り組んできました。とくに、トイレ掃除にはやかましく言うてきました。私は、車一台きれいするにしても徹底的に洗います。人の命までも守る車をきれいにしなくては、良い仕事はできません。職場も、車も、自分の暮らしも環境もきれいにする。そうすることで、良い人生が送れるのだと思います。

「後悔しないための微差」

来年は東京オリンピック、今、いろんな選手が、ものすごい練習をしていますよ。出られる人はほんの僅かです。みんな出たいけど出られない。出られる人はどういう人かと言いますと、あの時にやつておいて良かったという人が出られるんです。僅かなことですね。出られない人はどういう人か。あの時にやつておけばよかったという人が出られないんです。これは人生、ビジネス、何においても言えることですよね。出なかったのに出られない人はあの時にやらなかったことによる後悔に苦しむんですね。やったからといって必ずしもそれが良いことに結びつくとは限りません。あんなことしなきゃ良かったということもありますよね。でも、何かを良いと思って、自分が正しいと思つてやつて失敗をしたことは、必ず忘れるんです。ところが、やらなくて後悔を残すと後悔はいつまでも自分を苦しめる元になるんです。

故・森 信三先生が、「実践しなくても判る程度の道理は、大したものではありません。自ら苦勞してやつてみない限り、真理の門は開かれるものではありません。」と説かれました。『ただ身を低くして、実践あるのみ』

便教会新聞発行責任者 高野修滋
〒四四五―〇八〇二
愛知県西尾市米津町天竺桂二七七
T/F 〇五六三―五六一四三二七
携帯 090 - 4216 - 1727

実践便教会

胸に刺さりました。

私は今まで先生が見ているところでは掃除をしていましたが、見てないところではサボっていました。なぜなら、私が担当している職員室前廊下は教室の廊下よりも距離があるので、毎時間、膝や首が痛くなるからです。だから十五分間の掃除で廊下の半分も拭かずに終わる日もありました。さらに、私が以前までやっていた雑巾がけは「磨く」「きれいにする」というよりはただ拭くだけでした。ですが、今では膝をついて、ほぼ話さずに、ひたすら目の前の汚れと戦うことができるようになりました。

廊下はよく人が通るので、磨いても明日にはまた違う汚れがついているのですが、その汚れが取れた時の達成感忘れられません。クラスメイトと必死に雑巾がけをしていると、たくさん先生から「ご苦勞様。掃除に取り組む姿勢が素晴らしいですね」などとほめていただきました。しっかり掃除をしているなかったあの時には見えなかった世界が見えるようになって、また、あの時感じることでできなかった達成感や嬉しさを感ずることができるようになって、掃除でもやる気や工夫次第で人間は変わっていくのだと実感しました。

誰だって汚い場所よりきれいな場所のほうがいいはず。そのためにはまず、自分がきれいな

【編集後記】高浜高校現職教育の一環として5月に「掃除の効用」の講演、そして10月にトイレ掃除実践、私には夢のような出来事でした。先生、児童生徒が掃除の素晴らしさを体感し、明るく元気に学校生活を送ることを願って種蒔きを続けてきました。

便教会立ち上げから20年、掃除の魅力、素晴らしさを伝えたい、広めたい気持ちは変わりません。掃除をする際に難しい知識、技術は必要ありません。掃除はいつでもどこでも誰にでもできる簡単なことです。自分の中では対極の位置にあり、最も遠いところにあります。その遠くにある掃除に一步でも二歩でも近づくことは容易ではなく、きっかけがないと出合いのチャンスは減ります。今回の高浜高校便教会は、かつての同僚が当時生徒と一緒にトイレ掃除をしている私の姿を見ていたからです。十数年経つてようやく目に見える形で繋がったことは希です。森信三先生が『教育とは流れる水の上に文字を書くような儚いものだ。だが、それを岩壁に刻み込むような真剣さで取り組みなくてはいけない。』と遺されています。私は『教育＝掃除』だと確信しています。学校、会社、職場、家庭、そして地域社会の環境が乱れるとそこから何が生まれるのでしょうか？この基本的なことを疎かにし、土台となる部分で手抜きをすれば、コロナウイルス禍よりもっと恐ろしいことが起こります。掃除が軽視され、無視され続けられ、日本人の土台が崩れ美徳が失われます。 高野修滋 拝

場所を作っていると思いました。掃除は決して目立つことではないけれど、小さなことでも毎日ちゃんと続けていけば誰かが見てくれるし、感謝される。感謝の言葉を原動力にまた頑張れる。この良いサイクル、すなわち、「毎日の小さな積み重ねが大きな変化をもたらす」のです。これは掃除だけではなく日々の日常生活でも言えることであると思います。

毎日問題を一問解いたら、一か月で三十問。つまり三十問身に付く。これを何か月も続けたら、解く前に比べてどれだけ賢くなっているのか。受験生には強い武器だと思えます。この講演会でよい人生を送るための生き方を教えていただきました。最初は嫌だった掃除が今では少しずつ楽しみになってきています。まだまだ雑巾がけをしている時の膝の痛み慣れることはできませんが、以前より意味のある掃除ができるようになりました。「掃除に学ぶ人間力」。これはしっかり掃除した人にしか得ることができない力です。より良い人生を送るために、小さなことでも毎日コツコツやって、大きな力にしていきたい。見えない世界の扉を開けるために。

今号は稲沢市立千代田中学校の4人の生徒さんに寄稿してもらいました。まっすぐな純粋な気持ちに圧倒されました。「がんばらないと…」

『掃除を通じて自分を磨く』

二年 杉山 煌斗

ぼくは今まで、掃除という時間が面倒で仕方なく、学校の掃除の時間は真面目にやらず、友達との会話を弾ませ、掃除はゆるくやる毎日でした。便教会があると聞いても「どうせ大したものじゃないんだから」と思って、興味を抱いてはいませんでした。いつものように聞いたことをそのままメモして、感想を書いて終わり。そうやってしまっただろうなとなく予想がついていたのです。

便教会が開かれる当日の掃除でも、目に見えるだけのゴミを掃いて、メインは友達との雑談。隅のホコリなんて掃かないし、そもそも話をしていたて気付いていない。その頃の掃除の時間は雑談の時間でしかなく、真面目に掃除をする必要性すら感じていなかったと思います。先生からメモ用紙を渡されたときも、聞いた話を耳に入れてメモ用紙に書いて耳から流そう、そんなことしか考えていませんでした。「すぐに忘れてしまっただろう」などということも考えていました。昔から忘れっぽい性格で、小学校の時の記憶も修学旅行しか思い出せないのです、この便教会のことも記憶の片隅に埋もれてしまっんじゃないか、そう感じていたのです。そんな否定的な思いをもったまま、便教会が始まりました。講師の高野先生が入ってきたときも、その思いはずっと頭に残っていました。それに加え、「自分が面倒だと思っている掃除のことを伝えられても、何の意味にもならないのではないか」と、

少し失礼なことも考えていました。思い返せば、便教会の存在を真っ向から否定してしまっていたと思います。

それでも、今回の出来事が記憶に残っているのはなぜか。その理由の一つが、「講師の高野先生の掃除に対する熱意」だと思います。

講師の高野先生が掃除について語り始めると同時に、自分は高野先生の掃除に対する熱意がこもった言葉一つ一つに惹かれていきました。難しすぎる哲学的な話ばかりではなく、具体例も挙げた分かりやすさも一つの要因だと思います。頭がよくなる方法など、色んな事で高野先生の話に惹かれていくうちに、いつしか先生の話に夢中になっていました。周りで不真面目な友達が笑い出す声や姿が目にも耳にも入ってこず、高野先生が繰り広げる世界に没頭していました。少しだけ書いて忘れようとしていたメモ用紙はびっしり文字で埋まり、理解するつもりではなかった言葉を、自ら考えるようになっていました。

便教会を終えた後、心の中にいくつか変化が起きていました。「すぐに忘れてしまっただろう」は「忘れたくない」に、「どうせ大したものじゃない」は「すぐく心に残るもの」になっていました。他人からすればちっぽけな成長だと思いますが、自己否定感が強いといわれた自分からすれば大きな成長です。掃除においても、隅にあるゴミまで目を配り、とれるものは極力とるようにになりました。精神的側面でも、行動的側面でも成長できて、たいへん有意義な便教会となりました。

自分自身まだまだ成長することはたくさんあ

「気持ちの切り換え」と「気づき」

一年 原國 結生

掃除というと、「大変」「面倒くさい」というようなイメージが私にはありました。私の中学校にも掃除の時間があります。私もチャイムがなるまで時間いっぱい掃除をしています。心の中では「疲れたな」「はやく掃除終わらないかな」などマイナスな事ばかり、いつも考えてしまします。でも高野先生のお話を聞いていると、少しずつ、考えが変わっていきました。

「掃除は日々の積み重ねが大切です」

便教会の最中に高野先生が何度もおっしゃっていました。「日々の積み重ね」は掃除に限らず、私はこれがとても苦手です。例えばピアノの練習だって、コンクールが近くなってから慌てて練習していました。それを直すために今日こそは、と決めてもいざ始めるとなると面倒くさくなったりやる気が出なかったりして、結局は二三日でやめてしまうということを何回も何回もくり返してきました。でもそんな私を変えてくれたのは、

「面倒くさいはチャンス」

という高野先生の言葉です。私は最初、この言葉の意味が分かりませんでした。でも、やっと気付きました。私は今まで、「面倒くさい」という自分自身の言葉にひっぱられてしまっていたのだと思いました。マイナスな言葉を発することで、自分で自分の気持ちをマイナスにしていたのだ、と高野先生のおかげで気付くことができました。そう気付いてから私は、高野先生

ります。でも、今回の便教会を通して学び、得た「人間力」を活かして、さらなる成長へつなげていきたいと思います。そして、掃除を通して自己否定感を無くして、明るい、元気な人間になれるように努力していきたいです。

「やらないと」じゃなくて「やりたい」に

二年 水野 湧斗

僕は今年の初めの掃除場所がトイレでした。小学校でもトイレ掃除をやっていたけれど、今回のトイレ掃除はやりたくありませんでした。なぜなら部活動の時にしか使うことがないからです。その頃の僕は「どうせ、あんまり使わないんだから水をまくだけでもいいだろう」と思いながらやっていました。すみずみまでやってもきれいになることなんてないと思っていました。

しかしある時、トイレの中の臭いがとてもひどかったので先生に相談しました。すると、先生は、「じゃあ先生が毎日掃除手伝うから便器の中とか床をしっかりと掃除して臭いをなくそう」と言われたのです。そのときは正直「マジかよ。先生がきて一緒にやるのか」と思ってしまいました。

先生との掃除初日、自分達よりも早く先生はトイレに来て掃除をしていました。なさけなかったです。掃除担当の自分達よりも熱心になってやっていた姿を見てそう思いました。すると先生は「すごいよね。しっかりと磨いたら黒ずみがとれかけたんだよ」と言いました。先生が磨いた便器は本当にきれいになっていました。

に教えてもらったように、「面倒くさい」と心の中で思わずに掃除をしました。そうすると掃除をしているうちに、どんどん汚れている場所が見えてきました。そして、その汚れに気付いてからはなんだか掃除が楽しくなってきました。夢中になって掃除をしていると、掃除が終わるチャイムがなりました。私は驚きました。今までより掃除が終わるのが早く感じたからです。でも今までよりたくさん場所を掃除できたような気がしました。なんだかすっきりした気分になりました。

私が心に残っている言葉はもう一つあります。

「一人の百歩より百人の一步」

です。一人の百歩も百人の一步も量でいえば同じです。でも百人で一步を踏み出す方が、これから、長くたくさん進めると私は思います。掃除だって、誰か一人だけが頑張るよりみんなで力を合わせた方が、もっともっときれいになります。

私は、これから掃除をしていない人を見かけたら見て見ぬふりをせずに、その人たちに掃除のお手本を見せることができるような人になりたいです。掃除を真面目にやるなんてばかばかしいと思っている人もなかにはいると思います。それでもそんな間違った意見に流されず、正しいことをやりとおせるようになりたいです。そのためにはまず毎日の掃除をしっかり積み重ねます。そうして、みんなのお手本のような存在を目指していきます。

今回、初めて便教会に参加し、高野修滋先生から掃除をするこの意味などについてお話を聞きました。その話の中で「きれいを広げる」ということをおそわりました。きれいを広げるというのは一日一か所でもいいから毎日続けていくということを意味しているのだと思っています。少しずつやっていくことによって、いかその結果が実するということを学びました。現在、掃除場所が変わってしまってトイレ掃除ではないけれど、どこでも同じことだと思えます。これからはどんなところの掃除でもしっかり取り組んで、きれいを広げていきたいと思っています。